

(仮称) 江戸川区立図書館基本計画 (案)

令和6年(2024年) 月

本案のイラストやデザインは仮のものです。
意見募集後に改めてイラスト作成やデザインを行います。

区長の言葉

目次

1	計画の位置づけ	1
	(1) 計画の背景と目的	2
	(2) 計画の体系と期間	3
2	江戸川区立図書館の現状と課題	4
	(1) 江戸川区立図書館の現状	5
	(2) 図書館に関わるニーズ(アンケート調査から)	9
	(3) 江戸川区立図書館の課題	11
3	今後求められる江戸川区立図書館	12
	(1) 2030年の江戸川区立図書館の姿	13
	(2) 2030年に向けての取組み	14
	① サービス	15
	② コレクション	19
	③ 施設・運営	23
	④ 子ども読書活動推進	27
	(3) 計画の実現に向けて	33
	資料編	34

意見募集後に追加します。

1

計画の位置づけ

(1) 計画の背景と目的

共生社会 = SDGsにふさわしい図書館をめざします

区がめざす共生社会における図書館



出典：『共生社会ビジョン』表紙

江戸川区は、将来像としての『2100年の江戸川区（共生社会ビジョン）』と、「自分らしく輝けるまち」「安全で安心なまち」「環境にやさしいまち」「経済が元気なまち」「住み続けたいくなるまち」をめざし『2030年の江戸川区（SDGsビジョン）』を策定しています。

子ども読書活動推進計画

「子どもの読書活動の推進に関する法律」にもとづく子どもの読書活動推進についての内容を盛り込みます。江戸川区立小中学校では文部科学省「教育課程特例校」の指定を受け、「読書科」を設置しています。この計画により、区民の読書活動をさらに広げていきます。

読書バリアフリー計画

「視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する法律」にもとづき、障害の有無にかかわらず誰もが利用できる図書館をめざします。

社会状況の変化に応じた図書館づくり

社会の発展やデジタル化の進展により、図書館に求められるものは変化しています。区民のニーズを的確に把握した図書館づくりが不可欠です。

これからの江戸川区がめざす図書館の姿を明確にし 今後取り組む施策やサービスを計画

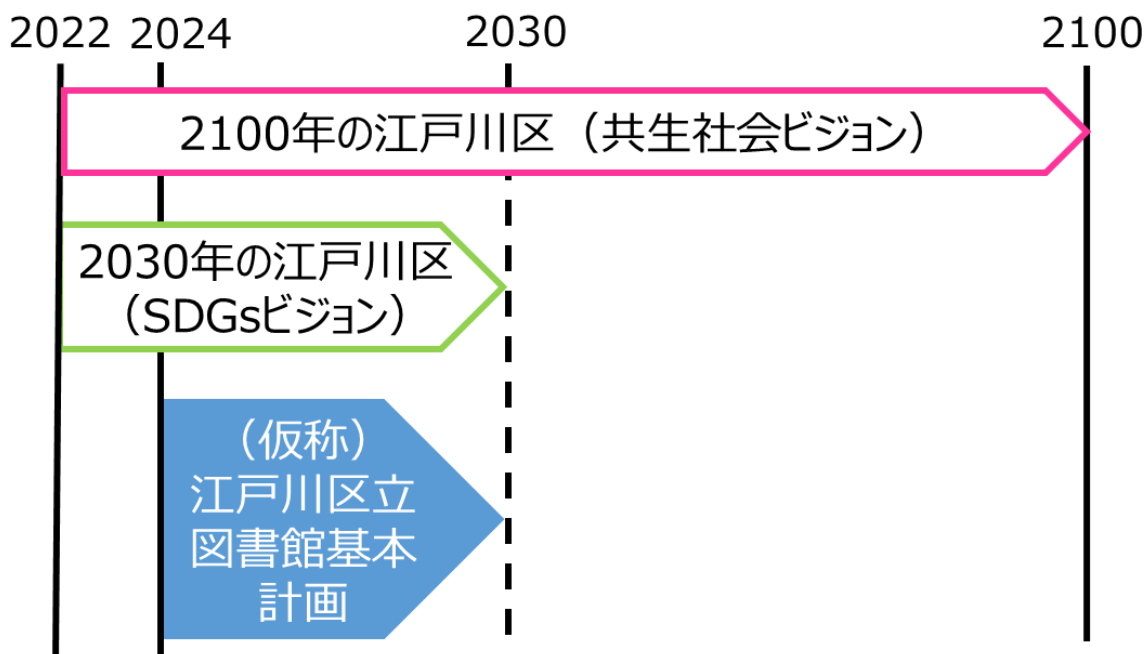
※「SDGs(持続可能な開発目標)」とは

2030年までにすべての国連加盟国が達成を目指す国際目標。経済(経済的な豊かさ)、社会(ひとり一人の人権の尊重)、環境(地域環境の保護)の3つのバランスをとり、将来まですべての人が平和で豊かに暮らせる世界を実現しようとするもの。

(2) 計画の体系と期間

計画の期間は2030年までとします

- 本計画は、『2100年の江戸川区』『2030年の江戸川区』を上位計画として策定します。
- 『2030年の江戸川区』では、図書館について「近くにないから」という理由で利用できていない区民の割合を0(ゼロ)にすることを目標にしています。
- 本計画のもとで、図書館の各種方針や事業計画などを立てていきます。
- 7年間という長期構想のため、数値による目標は立てていません。本計画を念頭に置き、より短い期間の計画において、適宜数値目標を設定します。



2 江戸川区立図書館の現状と課題

(1) 江戸川区立図書館の現状

江戸川区の概要

- 江戸川区は、東京都特別区的最東端に位置しており、人口約70万人の自治体です。
- 東京の他区市町村と比べて、子どもや子育て世代の割合が多いです。
- 23区の中でも外国人居住者の数が多いです。
- 「ともに生きるまちを目指す条例」を制定し、今日生まれた子どもたちが生活している2100年の未来に向けて、「誰もが安心して暮らせるまち」「共生社会」の実現をめざしています。

図書館の基本情報



中央図書館 外観

- 区民や区の在勤・在学者、団体等を対象とした公立図書館です。
- 区内には12の図書館があります。また、予約資料の受取や資料の返却ができる「図書館サテライト」を10校の小中学校に設置しています。
- 指定管理者制度を導入し、図書館を運営しています。

※「図書館サテライト」とは

もっと身近に区立図書館をご利用いただくため、区内10か所の小中学校に「区立図書館サテライト」を設置しています。週2回、予約資料の貸出や返却、利用登録など、区立図書館の一部のサービスがご利用いただけます。特に、「ブックポスト」は、年末年始等を除く24時間利用可能で、とても便利です。また、日曜日には学校図書館内の図書を自由にお読みいただける学校図書館の地域開放も行っています。

図書館の役割分担

江戸川区立図書館は「中央図書館」「地域図書館」「コミュニティ図書館」の3種の図書館で役割・機能を分担し、資料収集やサービス、施設運営を行っています。

中央図書館 (1館)	地域図書館 (9館)	コミュニティ図書館 (2館)
図書館システムの運営管理と組織的サービスを統括する中心館	それぞれの地域の身近な図書館	地域団体と連携したアットホームなサービスを提供
レファレンスサービス(参考相談業務)の充実	誰でも使いやすい図書館	日常生活での資料とのふれあいの場
相互協力ネットワークにおける江戸川区の窓口	地域の小中学校との連携の窓口	児童サービスの充実(本との出会いの場)

近年の主な取組み

■ 学校図書館との連携

- 区立図書館職員による学校図書館の運営支援や、学校図書館への蔵書管理システムの構築など、区立小中学校の学校図書館への支援を拡充しています。
- 区内10か所の小中学校に「図書館サテライト」を開設し、区民の利便性を高めています。

■ インターネットを通じてパソコンやスマートフォンなどで利用できるサービスの充実

- 外国語の資料を多くそろえた電子図書サービスを開始しました。
- 視覚障害者向け電子図書サービス「アクセシブルライブラリー」を開始しました。
- 区史や郷土刊行物などのデジタル化資料を公開するデジタルアーカイブサイトに、映像や音声資料を追加しました。

■ セルフサービス(自分でいろいろな手続きなどができるサービス)の充実

- 蔵書にICタグを貼り付け、それに対応した自動貸出機を全館で導入しました。
- 本の除菌機を設置しました。

図書館の配置

図書館と図書館サテライトを区内にバランスよく設置することで、誰もがより身近な場所で図書館の資料を借りたり返したりできるようにしています。

江戸川区立 図書館 MAP







江戸川区立図書館の統計（令和4年度）

江戸川区の図書館の主な実績は次の表のとおりです。

個人貸出数	4,482,003点	住民一人あたり個人貸出数	6.47点	自動貸出機稼働率（貸出に占める割合）	中央 41.39% 地域 22.60% コミュニティ 17.36%
所蔵資料数	1,627,341点	住民一人あたり所蔵資料数	2.36点	雑誌・新聞	雑誌 569種 新聞 68種
登録率（自治体内有効登録）	約30%（約13%）	来館者数（1日平均）	中央 約1,035人 地域 約732人 コミュニティ 約371人	オンラインデータベース	10種
イベントの実施回数	児童向け 600回開催 8,641人参加 一般向け 254回開催 5,997人参加	インターネット閲覧端末の利用回数	7,753回	障害者サービスの利用回数	宅配 310回 郵送 7,838回 対面朗読 74回

23区内での位置

江戸川区立図書館を他の22区と比較したものです。

<p>図書館数</p>  <p>図書館数</p> <p>8位 (12館)</p> <p>一館あたりの区面積</p> <p>23位 (4.09㎡)</p>	<p>所蔵図書数</p>  <p>所蔵図書数</p> <p>7位 (1,541,610冊)</p> <p>区民1人あたり図書数</p> <p>20位 (2.24冊)</p>	<p>貸出数</p>  <p>貸出数</p> <p>6位 (4,456,642冊)</p> <p>区民1人あたり貸出数</p> <p>20位 (6.47冊)</p>	<p>予約受付数</p>  <p>予約受付数</p> <p>12位 (989,264冊)</p> <p>区民1人あたり予約受付数</p> <p>20位 (1.44冊)</p>
--	--	--	---

資料費



年間資料費

2位
(203,409千円)

区民1人あたり資料費

14位
(295円)

児童サービス



児童書数

4位
(460,875冊)

児童書貸出数

5位
(1,869,371冊)

※『令和5年度 東京都公立図書館調査』より（令和4年度の統計）

(2) 図書館に関わるニーズ（アンケート調査から）

「江戸川区立図書館に関するアンケート」を令和5年（2023年）8月から9月に実施し、3,329名の方からご意見をいただきました。アンケート結果の詳細は資料編（p.34～）につけています。

図書館を利用しない理由

■ 図書館へのアクセス

「時間がない」「図書館が遠い」は30%を超え、他と比べて高く、「場所を知らない」は8.5%と比較的低い。

場所を知っているが行きにくいという人が多い。

■ 情報収集の手段の多様化

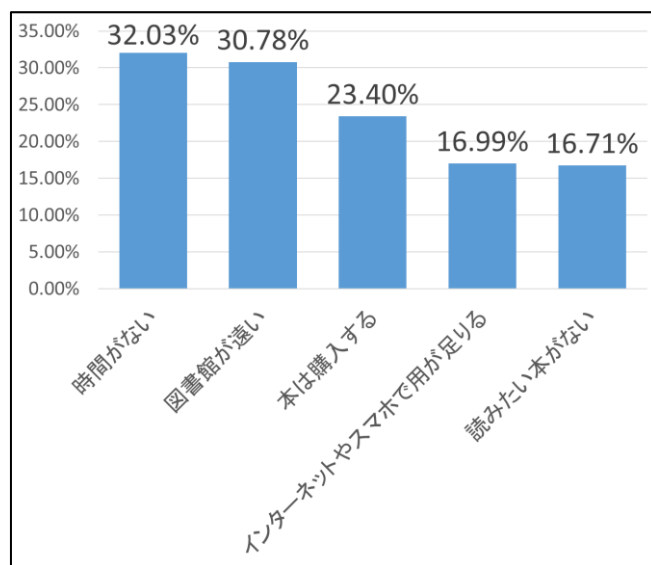
「本は購入する」「インターネットやスマホで用が足りる」「読みたい本がない」が続く。

図書館に読みたい本がない、情報入手はインターネットやスマホで足りると考える人が多い。

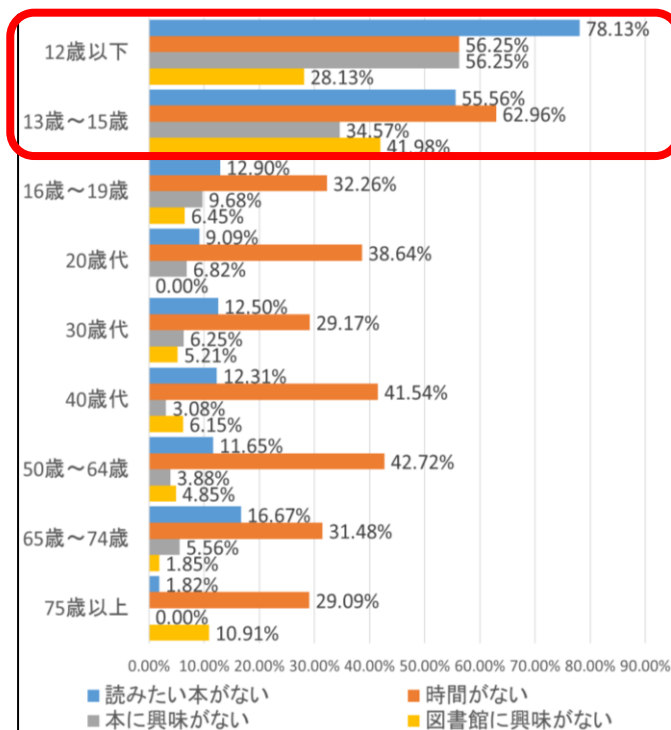
■ 子どもたちの読書や図書館利用への関心が低い

「12歳以下」「13～15歳」それぞれに占める「読みたい本がない」「時間がない」「本に興味がない」「図書館に興味がない」と答えた方の割合が、他の年代と比べてかなり高い。

読書や図書館の利用に時間をかけようとしていない子どもたちが多くいる。



図書館を利用しない理由
(回答数に対する割合の高い項目から5つ)



【年代別】図書館を利用しない理由

図書館へのニーズ

全体のニーズ

- **これまでの図書館と新しい図書館のあり方の両方を求める声**
 - 静かな読書スペースの提供など従来の図書館サービス
 - 来館しなくても利用できるサービス

若い世代のニーズ

- **【12歳以下】くつろげる図書館**
 - 寝転べる、くつろげる、飲食や談話ができる
- **【16歳～19歳】多様な情報源**
 - 音楽資料や映像資料、データベースが利用できる
- **【学生】さまざまな活動**
 - 多世代、多文化の交流や創造的な活動、Wi-Fi環境や電源が利用できる
 - スマートフォンやパソコンが利用できる
 - 情報の探し方などの講座、ボランティア活動などに参加できる

子育て・働き盛り世代のニーズ

- **子育てや仕事に役立つサービス**
 - 子ども向け・子育て支援、キャリアアップ・起業・就業のための講座など、子育てと仕事に役立つイベントなどに参加できる
 - 近くの施設で資料の受取や返却ができる
 - 家から電子資料を利用できる
 - イベントや閲覧席、会議室の予約など、図書館に行かなくても利用できる
 - 資料の配置が魅力的でわかりやすい、必要な資料が質・量ともに揃っている、データベースを利用できるなど、充実した情報環境

図書館を利用していない方のニーズ

- **従来の図書館の枠から、一歩ふみ出したサービス**
 - ものづくり・プログラミング・音楽などの趣味の場になる
 - グループで学習や作業ができる
 - 飲食や談話ができる、くつろげるスペースがある

(3) 江戸川区立図書館の課題

図書館の現状やアンケート結果による区民のニーズにもとづき、図書館の課題を整理しました。

- 共生社会の実現をめざす図書館として、読書バリアフリーの推進や外国人向けサービスの拡大、デジタルデバイド(情報格差)などへの対応が必要です。
- 子ども読書活動を推進し、子どもたちの読書への関心を高める取組みが必要です。
- 図書館を利用しづらい区民が多くいることから、区内全域にサービスを届ける取組みが必要です。
- 従来の図書館の枠から一歩ふみ出したサービスが求められています。

3 今後求められる江戸川区立図書館

(1) 2030年の江戸川区立図書館の姿

2030年の江戸川区立図書館の姿

2030年にどのような図書館になっていきたいかを描きました。

共生社会を支えるのは人びとの心です。多様な人びとが、互いの心に寄り添い支えあう社会をめざし、その基盤となる次の5つの図書館像を実現します。



(2) 2030年に向けての取組み

「2030年に向けての取組み」の構造

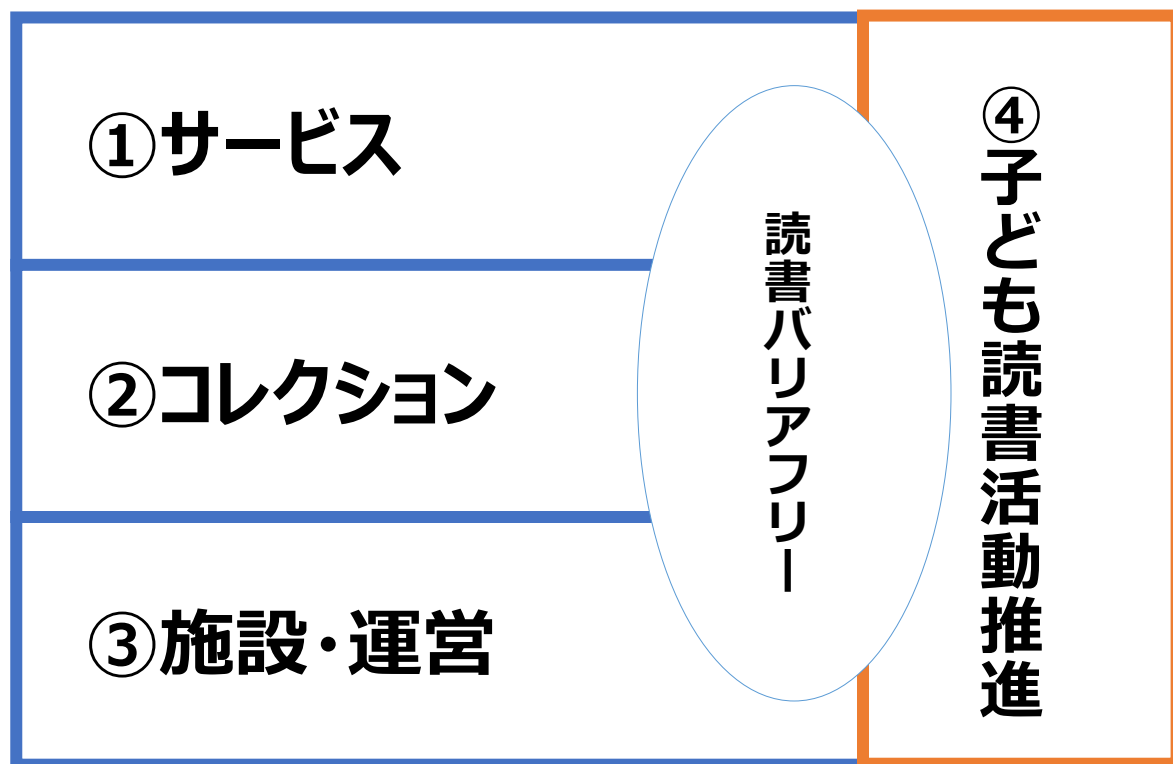
「2030年の江戸川区立図書館の姿」(p.16)を実現するための取組みを、

①サービス ②コレクション ③施設・運営の面から整理しました。

子どもたちに向けた取組みについては、その重要性をふまえて別だてとし、

④子ども読書活動推進として整理しています。

読書バリアフリーは、①～④のすべての項目に盛り込んでいます。



※「コレクション」とは

図書館の蔵書(所蔵している資料)のことですが、現在は電子書籍など「蔵書」という用語ではカバーできないものもありますので、本計画では「コレクション」と呼びます。

① サービス

2030年に向けての取組みの方針

【方針1】みんなにとって頼りになるサービスの充実

【方針2】楽しい交流の中でいろいろな体験ができるサービス展開

【方針3】どこでも便利に利用できるサービスの充実

現在の主な取組み

- 蔵書の閲覧や貸出、検索、予約をはじめ、購入リクエストや国や他自治体の図書館との相互貸借により所蔵していない資料の提供も行っています。
- 利用者の調べものを支援するレファレンスサービスを提供しています。カウンターや電話での受付のほか、郷土・行政資料の提供も行っています。
- 障害者サービスは、宅配サービス、郵送サービス、対面朗読などの提供のほか、サピエ図書館や点字図書館との連携も行っています。
- 熟年者へのサービスとして、大活字本の提供、福祉施設への団体貸出などを行っています。
- さまざまな講演会やセミナー、ワークショップなどのイベントを実施しています。
- 児童サービスとYA(中高生向け)サービスについては「④子ども読書活動推進」で触れます。



蔵書検索システム (OPAC)
(文章から検索できる「「本の発見」
検索」の画面)



対面朗読室
(中央図書館)

方針1 みんなにとって頼りになるサービスの充実

- 1 区民の「知りたいこと」に確実に応えるサービスを拡充します。
- 2 読書バリアフリーのためのサービス(障害者サービス)を拡充します。
- 3 熟年者の活動の場となるようなサービスを拡充します。
- 4 外国人へのサービスを充実させます。
- 5 デジタルデバイド(情報格差)の解消に取り組みます。

具体的取組例

※「具体的取組例」には、拡充、強化、新規導入とともにその検討を開始するものを含みます(以下同様)。

- 子育てや仕事の支援など、生活の課題について気軽に相談できるサービスやイベント
- 蔵書のデジタルデータ化などに柔軟に対応できる、読書バリアフリーのための環境整備
- 熟年者の方を講師としたイベント
- やさしい日本語や多言語化など、日本語以外を母語とする方への利用案内(ホームページ等)
- 翻訳ツールなど、日本語以外を母語とする方とのコミュニケーション手段の確保
- 「電子図書サービス」の利用促進
- パソコンやスマートフォンでの情報の探し方など、情報の活用を支援するイベント
- 所蔵資料にとどまらない、さまざまな情報へのアクセスを支援するサービス

方針2

楽しい交流の中で いろいろな体験ができるサービス展開

- 1 読書の楽しみを深めるさまざまなイベントを充実させます。
- 2 趣味関心に応じた多様なイベントを充実させます。
- 3 多世代が集い交流できる場を提供します。

具体的取組例

- 著者を囲む会など、読書の楽しみを深めるイベント
- ものづくり・プログラミングのような創造的体験など、趣味関心に応じてさまざまな活動ができるイベント
- 読書以外の切り口から、図書館利用のきっかけを生み出すイベント
- 世代を超えた読書会などの多世代交流イベント

イラスト

方針3 どこでも便利に利用できるサービスの充実

- 1 セルフ貸出・返却、セルフ予約棚の整備を拡充します。
- 2 来館せずに行える手続きやサービスを拡充します。
- 3 図書館ホームページや図書館システムの機能を改良します。
- 4 DXやAI技術の活用について検討します。
- 5 予約資料貸出や返却のためのサービスポイントを充実させます。
- 6 出張イベントを拡充します。

具体的取組例

- セルフ予約棚の導入
- 使い勝手がよく、わかりやすいデザインの図書館ホームページへの改良
- 「ウェブリクエスト」などの新しいサービスの導入
- 貸出券として利用できる図書館アプリの導入
- AIを活用した新機能の導入
- 図書館サテライトの機能向上・増設や、館外返却ポストの増設
- 区施設や商業施設などでの図書館イベントの出張開催

②コレクション

2030年に向けての取組みの方針

【方針1】みんなが楽しめる魅力的なコレクション・書架づくり

【方針2】便利に利用できるデジタル資料の充実

【方針3】読書バリアフリーのための資料の充実

現在の主な取組み

『江戸川区立図書館 資料収集方針と選定基準』で定めています。

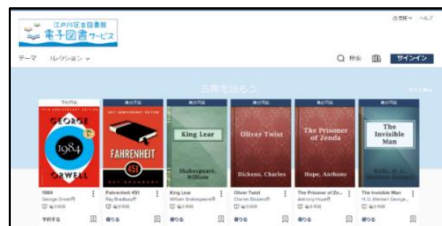
- 中央図書館は、専門的図書、参考図書、郷土・行政資料、地域図書館とコミュニティ図書館を補完する資料、価値の高いものなどを収集しています。
- 地域図書館は、一般教養、実用、趣味や娯楽などの資料、調査研究に資する基礎的、入門的な資料を収集しています。
- コミュニティ図書館は、一般教養、実用、趣味や娯楽などの資料を収集しています。
- 視覚障害者等のための資料は、点字図書、録音図書、大活字本などを収集しています。
- 外国語資料は、中央・西葛西・東部で収集しています。
- デジタル資料は、視聴覚資料（CD・DVDなど）や、電子図書、デジタルアーカイブなどを提供しています。



閉架書庫
(東部図書館)



録音図書と再生機
(中央図書館)



外国語図書などを提供する
「電子図書サービス」

方針 1

みんなが楽しめる魅力的なコレクション・書架づくり

- 1 読みたい!と思われるような魅力的なコレクションづくりとディスプレイを工夫します。
- 2 興味関心に対応した探しやすい書架づくりをします。
- 3 地域の特性に応じた資料を充実させます。
- 4 社会の進展に応じた資料収集方針等の柔軟な見直しをします。

具体的取組例

- 子育て、教育、起業・就業、仕事のスキルアップ等の課題や、趣味・関心のあることに応じたコレクションづくり
- 新しい知識を得られる資料を揃えた書架や、分類にとらわれない横断的な配架、魅力的なディスプレイの工夫
- 地域課題について調べられる図書や地図、雑誌、パンフレットなどの収集
- 選書への区民参加

イラスト

方針2 便利に利用できるデジタル資料の充実

- 1 来館せずに利用できる電子図書コンテンツを充実させます。
- 2 オンラインデータベースを充実させます。
- 3 音楽・映像の情報源を充実させます。

具体的取組例

- 電子図書サービスの購入範囲の拡大
- 新聞雑誌記事、統計、辞書辞典類などのオンラインデータベースのコンテンツの拡大とその使い方の支援のための講座等
- デジタルアーカイブの収録コンテンツの拡大
- スマートフォンで利用できる音楽サービスなどの導入

イラスト

方針3 読書バリアフリーのための資料の充実

- 1 アクセシブルな(利用しやすい)資料を充実させます。
- 2 多言語や、やさしい日本語の資料を増やします。

具体的取組例

- 録音図書や音声読み上げに対応した電子図書の収集
- 大活字本・点字・触る絵本などの利用しやすい資料の収集
- マルチメディアデイジーの製作
- 図書資料のテキスト化
- 電子図書サービスや多言語の資料の収集
- 日本語がやさしく書かれた資料の収集

イラスト

③施設・運営

2030年に向けての取組みの方針

【方針1】みんなが使いやすい施設・設備の整備

【方針2】地域の機関・施設や書店などにつながる取組み

【方針3】サービスの向上を図るために必要な人材の確保・育成

現在の主な取組み

- 区立図書館12館の構成や面積は、資料編(p.34～)のとおりです。
- 区内10か所の小中学校に図書館サテライトを設置しています。
- 指定管理者制度を導入し、民間のノウハウを活用した図書館運営をしています。
- サービスやコレクションづくりのための地域内外との連携(レファレンスや国や他自治体の図書館との相互貸借など)をしています。
- 地域と連携した、図書館ごとの特色のある事業を実施しています。
- 全館に順次Wi-Fiを導入しています。
- 会議室等を学習室として開放する期間を設けています。
- 対面朗読室、点字作業室、録音室、点字プリンター・点字用パソコン、読書拡大器を一部の館に設置しています。



小松川図書館 外観



図書の返却ができるブックポスト
(図書館サテライト)



車いすやベビーカーが通れる
書架の間の通路
(西葛西図書館)

方針1 みんなが使いやすい施設・設備の整備

- 1 イベントスペース、展示スペースを確保します。
- 2 ユニバーサルデザインの採用やバリアフリーの整備をします。
- 3 Wi-Fiや電源、パソコン貸出など、情報設備を充実させます。
- 4 さまざまな年代の方に適した時間・さまざまな目的に合わせた空間の工夫をします。

具体的取組例

- 個人学習やグループ学習、仕事、交流イベント、制作物の展示など、さまざまな活動に対応できる新施設・設備の整備（複合施設化を含む）
- 静かな環境とにぎやかな環境が両立するゾーニング
- ユニバーサルデザイン、バリアフリー、やさしい日本語や多言語のサイン、授乳室の整備
- 座席数の増設や、居心地のよい家具の整備
- パソコンやスマートフォンを接続できるWi-Fiや電源の整備
- デジタルサイネージを活用した、情報環境の整備

※施設・設備の整備については、新築・改修等の大幅なレイアウト変更が可能なタイミングで設計に取り入れていきます。

現行の施設では、可能な範囲で取り入れていきます。

方針2 地域の機関・施設や書店などにつながる取組み

- 1 地域の特性に応じた図書館運営の充実をさせます。
- 2 書店との連携を強化します。
- 3 地域内外の機関、施設との連携した取組みを行っていきます。

具体的取組例

- 地域の特性の把握とそれに応じた取組み（外国人利用者が多い西葛西図書館での外国人向けイベントなど）
- 「図書館サテライト」の効果検証と、利便性の高い地域への配置（学校以外の区民施設などの活用を含む）
- 地域の書店と連携したイベント
- レフェラルサービス（利用者が求める情報に応じた機関などを紹介するサービス）のための地域内外の専門機関との連携

イラスト

方針3

サービスの向上を図るために必要な人材の確保・育成

- 1 図書・情報に関する知識とスキルを持った図書館職員を確保します。
- 2 これからの図書館サービスに必要な知識・スキルをもった職員を確保・育成します。

具体的取組例

- さまざまな機関と連携できる図書館職員の確保、その育成のための研修
- デジタル技術に精通した人材の確保、その育成のための研修
- 情報検索スキルの向上など、本計画の実現のために必要な人材の確保、その育成のための研修
- 子どもや高齢者ケアに関する専門的な知識・スキルをもった人材の確保、その育成のための研修
- 外国語のスキルを持った人材の確保、その育成のための研修

イラスト

④子ども読書活動推進

2030年に向けての取組みの方針

【方針1】みんなのニーズ・発達段階等に応じたサービス

【方針2】子ども読書活動を確実に推進するためのコレクション

【方針3】地域をつなぐ子どもの読書環境の整備

【方針4】学校教育の状況に応じた学校連携

現在の主な取組み

- 児童書をそろえた「篠崎子ども図書館」を設置しています。
- 児童サービスは、絵本・紙芝居・児童書の提供、イベントの開催、本の紹介冊子の提供、小学校・幼稚園・保育園等との連携や団体貸出などを行っています。
- YA(中高生向け)サービスは、ティーンズコーナーの設置、イベントの開催、中高生向け情報冊子の提供、中学校との連携などを行っています。
- 区立図書館職員による学校図書館運営支援と学校図書館への蔵書管理システムの構築などを行っています。
- 調べる学習の支援として、「図書館を使った調べる学習コンクール in えどがわ」を毎年開催しています。



篠崎子ども図書館がある
子ども未来館外観



子ども用新聞・雑誌コーナー
(松江図書館)



貸出用ボードゲームを所蔵
(東部図書館)

「子ども読書活動推進」に関わるさまざまな主体

子どもの読書活動推進には、図書館、教育機関、地域、家庭等が連携し、地域社会全体で取り組み、子どもたちに読書の楽しさを届けることが必要です。

【図書館】
中央図書館
地域図書館
コミュニティ図書館
図書館サテライト

【教育機関】
保育園
幼稚園
認定こども園
小・中学校
高等学校 等

【地域】
子ども未来館
共育プラザ
子育てひろば
なごみの家
コミュニティ会館
魔法の文学館
書店 等

【家庭】

方針1 みんなのニーズ・発達段階等に応じたサービス

- 1 楽しい！と思える場の提供と読書へのきっかけをつくります。
- 2 乳幼児の読書との出会いの場を充実させます。
- 3 読書ばなれが段階的に進む小学生、YA（中高生）の興味関心を引く取組みをします。
- 4 特別なニーズを持った子ども（障害者、外国人など）へのサービスを拡充します。

具体的取組例

- 赤ちゃん絵本コーナーやりんごの棚など、展示コーナーの設置
- 図書館見学ツアーなど、保育園などの子どもたちに図書館に来てもらうための取組み
- ゲームの要素を取り入れた、読書のきっかけとなる楽しい体験イベント
- ものづくり、プログラミングなど、創造的体験ができる場の提供
- 探求的学習のテーマ選定に役立つ、検索キーワードの例示やテーマ別ブックリストの作成など

※「りんごの棚」とは

特別なニーズのある子どものためのアクセシブルな書籍を集めた本棚のことです。スウェーデンで始まり、この「りんごの棚」という名称で世界各地の図書館に広がっています。この本棚には、やさしく書かれた本、触って楽しめるもの、大活字本、点字の本、録音図書など、読みやすさやバリアフリーに配慮した書籍が置かれています。

方針2

子ども読書活動を確実に推進するための コレクション

- 1 読書バリアフリーコンテンツを拡充します。
- 2 多様化するメディアの幅広い収集を行います。

具体的取組例

- さまざまなニーズに応じたコレクションづくり
- 点字・触る絵本・触地図、多言語の本（外国語絵本など）や、やさしい日本語の本などの収集
- 百科事典やその他の学習コンテンツのデータベースの提供
- 教科書の内容に沿って学べるコレクションの提供

イラスト

方針3 地域をつなぐ子どもの読書環境の整備

- 1 子ども同士や親子などで、リラックスして自由に読書を楽しめる快適な読書空間づくりをします。
- 2 地域に読書機会を届ける手段を増やします。
- 3 地域の施設・団体と連携します。
- 4 子どもが主体となった活動の推進や担い手の育成をします。
- 5 篠崎子ども図書館（子ども未来館内）で先行して読書活動推進の新しい取り組みを導入し、普及させます。

具体的取組例

- 話したり、寝転んだりして読書を楽しめる空間づくり
- 没頭して読書や学習ができるような空間づくり
- 子どもが集まる場に読書の楽しみを持ちこむ、新しいタイプの移動図書館
- 就学前教育施設、共育プラザ、子育てひろば、なごみの家、魔法の文学館などとの共催イベント
- 地域書店等との子ども読書に関わる連携講座
- 子どもたち同士で読書の楽しさを広めあう活動
- 子ども司書養成講座や子どもによるおはなし会
- 子どもの読書活動推進の担い手に向けた講座
- 篠崎子ども図書館でのイベントや講座など先進的な取組みと、区内各館への普及・推進
- 地域の読書活動支援に関わる人びとの交流・情報共有の仕組みの構築

方針4 学校教育の状況に応じた学校連携

- 1 学習のためのコレクションを充実させます。
- 2 GIGAスクール構想に対応した取組みを行います。
- 3 区立図書館と学校図書館の図書配送の仕組みを検討します。

具体的取組例

- 区立図書館職員による学校図書館の運営支援
 - ・ 子どもの学習に対応した学校図書館コレクションの充実
 - ・ 区立図書館からの団体貸出用図書パッケージによる支援
- 児童・生徒用タブレットと、図書館のインターネット環境との連携
- 区立図書館と学校図書館のシステム連携の構築と、学校への資料配送方法の改善

イラスト

(3) 計画の実現に向けて

本計画は、江戸川区立図書館の発展のための第一歩です。

共生社会の実現と、その社会的基盤として「みんなが」「楽しく」「便利に」「つながる」「頼りになる」図書館づくりを進めていきます。

- 本計画にもとづき、各方針や基準などを見直し、数値や取組みの目標を明確に示します。
- 取組例として挙げた項目を中心に、既存サービスの拡充・見直しや、新しいサービスの実現に向けてスピード感を持って取り組みます。
- 取組みにあたっては、地域の機関や施設と連携します。
- 図書館利用者をはじめ、区民や関係者との意見交換を行います。
- 2030年以降のビジョンを描きながら、新たな図書館づくりを進めていきます。

資料編

意見募集後に追加します。

- ・用語集
- ・アンケート結果
- ・施設一覧 など

発行月：令和6年（2024年） 月
編集・発行：江戸川区文化共育部文化課
〒132-8501 江戸川区中央1-4-1
03-3652-1151（代表）
<https://www.city.edogawa.tokyo.jp>